学校法人 滋慶学園　仙台農業テック＆カフェ・パティシエ専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料

2022年度自己点検自己評価（2022年4月1日～2023年3月31日）による

大項目	点検・評価項目	自己評価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	点検・評価項目総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）	評　価 優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 1-2 学校の特色は何か 1-3 学校の将来構想を抱いているか	3	学校法人滋慶学園仙台農業テック＆カフェ・パティシエ専門学校は、学校法人滋慶学園グループに所属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」をミッション(使命)としている。 また、「建学の理念」・・・「実学教育」・「人間教育」・「国際教育」を実践し、「4つの信頼」・・・「学生と保護者の信頼」・「高校の信頼」・「業界の信頼」 「地域の信頼」を得られることを軸にした考え方で学校運営を行っている。 学校設立のコンセプトは、～業界と共に「信頼」を得る学校～　であり、単なる専門知識・技術を持った人材を養成するのではなく、業界に喜ばれる感動的な人材を育てるという基本的な考えの基に人材育成を行っている。 又、「職業人教育」=「専門職業教育」+「キャリア教育」との観点より 「仲間と面白い仕事を夢中でする幸せ」の獲得を目指し、そのために必要な「身構え、気構え、心構え」を育成する。という基本的方向性に基づいて、 入学前(基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期)・在学中(専門職業に就くプロセスの設計と能力の習得をする時期)・卒業後(社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期)と捉え展開している。 滋慶学園グループの「建学の理念」や「4つの信頼」を踏まえた、自主的・自律的な3つのポリシーの策定 ①DP（ディプロマポリシー）・・・卒業認定・学位授与の方針 卒業までに学生が身に付けるべき資質・能力の明確化 ②CP(カリキュラムポリシー)・・・教育課程編成・実施の方針 体系的で組織的な教育活動の展開のための教育課程編成、教育内容・方法、学修成果の評価方法の明確化 ③AP(アドミッションポリシー)・・入学者受け入れの方針 入学者に求める学力の明確化と具体的な入学者選抜方法の明示 以上の3つのポリシーとそれに基づく教育の実績等を分かりやすく積極的に情報公開することで、産業界からの理解を得て連携を強化する。	「学校法人滋慶学園グループ」 昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッションに掲げ、全国に84校の高等教育機関及び専門学校を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、「建学の理念」・・・「実学教育」・「人間教育」・「国際教育」と「4つ信頼」・・・「学生と保護者の信頼」・「高校の先生の信頼」・「業界の信頼」・「地域の信頼」を実践することで、教育の実現を目指している。 ○「実学教育」 業界が求める人材を業界と共に育成し送り出すことを教育コンセプトとし、業界の即戦力として活躍できる専門知識や技術を習得し、将来的なニーズに対して創造的に対応できる専門職として、業界が求める人材を育成する。 ○「人間教育」 学ぶことは、将来の目標実現に向けて自己変革し、自らに付加価値をつけ、専門知識や技術だけでなく、使命感を持って前向きに生きる情熱と思いやりを持った心豊かな人材を育成する。 ○「国際教育」 21世紀はボーダーレスの時代といわれ、ビジネス・シーンにおいては海外での活動や外国の方々とのコミュニケーション、ビジネスの機会が拡がる中、外国語だけでなく他国のことを知ると同時に、自国のこと（歴史、文化、伝統）を良く知り主張もできるグローバルな視点を持った人材を育成する。 3つのポリシー DP（ディプロマポリシー） 創造力豊かな業界が求める即戦力となる人材を育成する 1)「好きな仕事」を通じて想像力とアイデアで人に感動を与える人 2)夢に向かって自らイノベーションし成長していく人 3)業界が必要とするリーダーシップを発揮する人 CP（カリキュラムポリシー） 「建学の理念」（実学教育、人間教育、国際教育）を実践し、「4つの信頼」（学生からの信頼、高等学校からの信頼、産業界からの信頼、地域からの信頼）を得ることを教育コンセプトとし、産学連携教育を通じて、業界に必要とされる即戦力を身につける。 AP（アドミッションポリシー） 仙台農業テック＆カフェ・パティシエ専門学校では、職業人教育を通じて社会に貢献することをミッションとし、業界に喜ばれる人材を業界とともに育成している。よって入学者受け入れ方針を満たした以下のような人を国内外より広く受け入れる。 1)将来の夢や目標を持っている人 2)学校の教育内容や方針を十分理解している人 3)好きな仕事を通じて、人に喜びや感動を与えたい人 4)「好きな事を仕事にしたい」という気持ちを持っている人	(3)・２・１	専門学校教育に長年携わってきたが、御校のミッション（使命）は明確に提示されていて、職員、学生ともにしっかり理解できていると感じられる。他の学校では感じられない理念・目的・育成人材像なども明確にされていて、滋慶学園のどんな分野にも共通する方針に則って教育できる。 他の専門学校に教えに行く経験もあったが、滋慶学園は「職業人教育を通じて社会に貢献する」ミッションをもとに、「建学の理念」である「実学教育」・「人間教育」・「国際教育」と４つの信頼の実践も良くできていると感じる。また国際教育にも単純に海外研修だけでなくオンラインでも取り組むなど、積極的な取り組みでよくできていると思う。 英国の元首相であるサッチャー氏が提唱した教育改革の中に学校評価制度があるが、滋慶学園においてこれを導入し運営に活用している点が地域内に多数存在する学校に見られない優れた特色だと感じています。実学教育の成果を可視化、数値化する上で学校独自の審査試験が望ましいと考えます。食品衛生管理等を含む食品知識や調理器具を用いた技術の習得状況（例えば大根のかつらむき、だし巻き卵等）の把握に努め、継続的及び段階的に評価することが学生の道ベーション向上と学校並びに学生に対する評価、信頼に繋がると考えられます。 スクールミッションを的確にとらえ、専門性が高い特徴を明確に打ち出しており、信頼される教育を実現すべく3つのポリシーを示すなど学校の将来像を見据えた考えが示されており、適切な評価をしていると感じました。

2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか 2-5 事業計画は定められているか 2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか 2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか 2-8 意思決定システムは確立されているか 2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。 それを受けて、滋慶学園COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶学園COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各校における運営の核となるものである。 事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決算を受け、承認を得ることになっている。 それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修も行っている。 事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。 運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。 学校が最も大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成を行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また係わる全ての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。	各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校における全ての部署について考えられ、また、全ての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。 学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。	(3)・２・１	人員の少なさを感じる。授業を円滑に回すのには先生方の負担が大きように感じるので、人手を増やすことが優先と思う。 現状の学生数と比べてもスタッフの少なさを感じる。普段の様子をみると授業を円滑に回すのには先生方の負担が大きように感じるので、スタッフの数を増やすことが優先と感じています。 学校の運営方針策定及び事業計画書作成にあたっては学校側からの代表者からも意見・要望等を収集することで学校全体の一体感が醸成されると考えます。 学校の将来を念頭に環境の変化に的確に対応できるよう期間を区切りながら事業計画が作成されており、これにより各部署が同じ考えのもとで業務が進められていると感じました。
3 教育活動	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか 3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか 3-14 キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか 3-15 授業評価の実施･評価体制はあるか 3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか 3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか 3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか 3-18 資格取得の指導体制はあるか	3	職業人教育は業界と密接な関係を持つ必要があるため、建学の理念・学校設立コンセプトに基づいて、常に業界の動向を把握し変化に対応して養成目的や教科目標の見直しを毎年実施している。 仙台農業テック＆カフェ・パティシエ専門学校は、「産学連携教育システム」を実践しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成している。 教科目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで体系的に編成されている。 また、カリキュラムは専門職業教育とキャリア教育の二本柱から成り立っている。 講義改善、教職員・講師の資質向上等を目的として授業評価を年2回実施しており、学生の理解度や講師の状況等を正確に把握し改善している。 成績評価・単位認定は、明確な基準を学生に提示している。 資格取得については、業界で業務遂行上必要な資格、就職に有効な資格を中心に取得へ向けて支援を行っている。	仙台農業テック＆カフェ・パティシエ専門学校は、開校以来教職員の目標として、 1.就職率100%(第一専門職) 2.退学率0% を目標に掲げ、達成のために教育システムを構築している。 1. 産学連携教育システム 即戦力としての専門的知識・技術、資格取得、ビジネスマインド等の修得のための教育システムであり、 ① 企業プロジェクト ② ダブルメジャー・カリキュラム ③ 業界研修 ④ 海外実学研修 ⑤ 特別ゼミ ⑥ キャリアセンター　などである。 2. キャリア教育 「仕事は一人ではできない。仲間と面白い仕事を夢中でする幸せは、何よりの幸福である。」という根本的な考えから、キャリア教育ロードマップを作成し、 ① 入学前・・・基盤となる勤労観・職業観の形成と確立をする時期 ② 在学中・・・専門職業に就くプロセスの設計と能力の修得をする時期 ③ 卒業後・・・社会・職業人への移行と更なるキャリアを開発する時期 と捉えて取組んでいる。	(3)・２・１	御校の特色である産学連携教育は、他の学校との教育の質に大きな差がつく優位な点であると思います。その他にもダブルメジャープログラムなども学生にとって学べる環境の役に立っている。業界研修などで手伝うことができればお声がけをしてほしい。 卒業までのキャリア教育がしっかりとロードマップ化されており、それに沿って授業ができていると感じる。また年々学生の質が変わってきているので、そこに満足度を合わせるのが難しく感じる。就職率１００％は毎年よくできていると思う。退学に関しては学生一人ひとりの質が違うので、先生方の負担がとても大きく大変だと思います。授業に馴染めない学生への配慮も必要だが、そのために他の学生への配慮が薄くなることはあってはならないことであると思います。 企業課題が非常に良かったと思います。 卒業後の早い時期に戦力として活躍するためにも産学官と密接に連携した実践教育は有効だと考えます。企業や法人等と連携した商品開発は学習成果の見える化と達成感の獲得・アルバイト就労とは異なった社会との関わり体験にも繋がると考えます。 産業界と連携したシステムを構築するなど学生の将来を見据えた学習内容を提供しており、特に学生のキャリア形成の面では、ロードマップを作成するなど時期に応じた求める資質・能力の形成に努めていると感じました。

4 教育成果	4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 4-20 資格取得率の向上が図られているか 4-21 退学率の低減が図られているか 4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	開校以来、産学連携教育システムである企業プロジェクト、企業課題に積極的に取り組み、企業に採用された作品や地域との信頼、貢献に繋がるプロジェクトやボランティア活動も定期的に実施できるようになり、学生達への「実学教育」「人間教育」に繋がっている。 教育成果は、目標達成の努力の結果であり、本校では第一専門職就職100%、退学率0%を教育成果の最終目標としている。	教育成果の1つである就職率は、コロナ禍に於いても就職希望者64名中64名で目標としていた就職率100%となる。食業界が人材不足ということもあるが今年度は有名ホテル・有名店への就職が目立つ結果となった。出口としては開校以来一番の実績であった。 また、2022年度の退学については119名中7名が退学し、退学率は5.8%であった。全国平均と比較すれば低いが次年度は退学率減少を目標に学生満足度を上げていく。特に新入生（1年生）に重きをおき入学前情報をくまなく情報を精査し一人ひとりを親身にしっかりサポートを実施していく。 これからも一人ひとりに目を向け、チームとして情報を共有し、小さなことから発見していくように今後も努めていきたい。各学科内での連携、学生への個別カウンセリングの強化・保護者との連携などを行い、退学率の減少に努力したい。	３・２・１	飲食業界はコロナ禍のあとに人手不足が目立っているので就職率については安泰だと思う。しかし業界に入ってくる高校生が少なくなっているように感じられるので、もっと集めていただけるよう広報力を高め、学生募集に一層尽力してほしい。 飲食業界はコロナ禍のあとに人手不足が目立っているので就職率については安泰だと思う。しかし入学する高校生が少ないように感じられるので、もっと集めていただけるよう広報力を高め、学生募集に一層尽力してほしい。スタッフの充実が相乗的に教育効果を上げることができると思う。 好きなことを仕事にできる。好きな地域、企業で仕事ができることは若者にとって特に幸せなことだと思います。やがては起業したり企業の中枢で活躍する夢にも繋がる就職率の高さは優れていると思います。夢の実現に向けて全員就職までサポートを続けるとともに、リタイア退学を防止することを目標にしている点が優れていると感じました。 就職の達成率100％は素晴らしい成果だと思います。一方で退学する学生も一定数おりますが、その原因が学校にあるとは思えません。退学者数に一喜一憂することなく、御校が取り組まれている「一人ひとりを大切に」サポートを続けることが大切と考えます。
5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか 5-24 学生相談に関する体制は整備されているか 5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか 5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか 5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか 5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか 5-29 保護者と適切に連携しているか 5-30 卒業生への支援体制はあるか	3	仙台農業テック＆カフェ・パティシエ専門学校では、学生支援として下記の事項を行っている。 ① 就職・・・専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との連携を取りながら、就職イベントの開催(就職出陣式、合同企業説明会、キャリアセミナー、就職保護者説明会)、就職の相談、斡旋、履歴書作成等の各種指導などの支援を行っている。 ② 学費・・・事務局会計課に相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、教務部に奨学金窓口を設置している。 ③ 学生生活・・・担任・副担任制により学生カウンセリングを行っているが、悩み相談窓口としてSSC(スチューデント・サービス・センター)を設置し、週2日は心理カウンセラーも配置している。 ④ 健康管理・・・年1回の健康診断を実施し在学中の健康管理を支援している。 ⑤ 学友会・・・学友会として、ゴスペルやバレーボール部・サッカー部などの部活動がある。 ⑥ 施設使用・・・学生が自ら進んで勉強できるように、実習室・機材を貸し出ししている。 ⑦ 図書室・・・知識を広げ自習が出来るように図書室を設置、図書室には情報収集ができるようインターネットが利用できる。	学生支援の特記事項として、下記の事項をおこなっている。 ① 就職は、入学時からの目標であるため専門部署であるキャリアセンターを設置し、業界研修の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント、就職斡旋等、就職に関するあらゆる支援を行っている。また、求人情報が携帯電話でも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」等も導入している。 この結果、就職希望者全員就職までのサポートが出来ている。 ② 学費・・・事務局会計課に学費の分納等に関する相談窓口を設置し、フィナンシャルアドバイザーによる支援を行っている。また、日本学生支援機構の奨学金を利用する学生が在校生の47.9%と高いため、教務部に奨学金窓口を設置している。 ③ 教育環境・・・即戦力の人材育成をするために、施設・設備、機材等について整備し、業界のニーズと合致したカリキュラムを構築している。	３・２・１	学生の支援については他校に比べて厚いと思う。 担任とキャリアセンターの支援により、就職先が非常に良い企業が揃っていると感じる。また学費などの問題で退学した学生もいないということで、学生支援に関しては充実していると思います。 ２階調理実習室のように製パンの実習室も充実をお願い致します 家電等との家財が備えられた寮が学校の近くに併設されれば、学生支援に繋がると考えます。新寺1丁目のJR東日本青葉寮が現在取り壊し工事中ですが、寮として好適地だと老婆心ながら感じております。産学官の取り組みとして、一定の英語力及び海外就労体験希望を持つ学生を対象にワーキングホリデーへの支援を学校カリキュラムで実施できれば如何かと考えます。 様々な分野で学生の希望に応える適切な学校支援の体制が整備されていると感じました。特に希望進路達成に向けたサポートでは、大きな成果が出ていると思いました。

6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか 6-33 防災に対する体制は整備されているか	3	仙台農業テック＆カフェ・パティシエ専門学校では、「職業人教育を通して社会に貢献する」というミッションのもと、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としている。この目的を達成するために必要な教育環境(施設、設備、機材等)の整備は重要であり整備されている。 また、学内の教育環境に留まらず、学外の教育環境(業界研修、学外演習、海外実学研修)も整備している。	東北地区における「好き」を仕事にするをキーワードにした本校にとって、施設設備の更新が必要である。2011年に食分野を開校し経年劣化が進んでいる機材もあるため本校教務職員を中心に点検を実施。学内全面LEDライトに変更し、全面明るさが確保された。その他、実習機材に関しては古いものや経年劣化が進んでいるものは年度末に改善を実施。また、新たな試みとして製菓実習室にはタブレット機器を配置し、デモ台の見やすさ、反復学習に使用できるように取り組んでいる。加えて、調理実習室では天吊りモニターを交換。その他、カメラ2機＋マイクを設置し、実習状況を収録できる仕組みを導入。同時に、本機材は配信にも対応しており、今後授業内容を工夫できる仕組みを設置している。新たな農業分野では農機具（トラクター等の機械）や沿岸部（新浜）へハウス2棟を設置。また、みどりクラウドを導入し、遠隔地から圃場の状況を確認できるシステムを導入。今後、データを元に分析に活用していく。今後も、事業計画により予算計上を行い、計画通りに更新していく。	３・２・１	２階調理実習室は充実してきたが、製パンや製菓実習室にも導入すると教育効果・授業効果が非常に高まると思う。宮調・スイカフェ全て実習室カメラ録画は整っている。農業科　農地は見ていない農地実習作物専用冷蔵庫が学内にない　非常に衛生状危険で有る。学生数が増えて農作物収穫も増産されることが予想される　冷蔵庫は必須である。学園祭準備期間からサポートしたがとても不安でした。駐車場にチャンバーを備え付けることが理想である。 施設や海外研修などは概ね充実していると思うが、やはり３階実習室にもカメラが有ったほうが良いと思う。先日パン専攻学生の調理授業を行った時に学生がカメラいいなーの発言が有った。洋食の鍋が少ない現場とは違うかもとは思いますが余りに手鍋浅い鍋が少ない　後1種類追加して頂ければ有難い（鍋がないのでメニュー限りが有る） 冷凍冷蔵庫的修繕が必要、のし板、麺台(カビが発生）2011年開校から同じ物。冷蔵庫のパッキンカビの為交換した方がいい。 カフェ実習室でショップ演習を年4階実施しているとのことで学園祭と共に楽しみにしております。調理設備や図書等も充実しており環境が優れていると感じました。津波被害の新浜地区を農業の教育基地に選定し地域の活性化を目指している点に好感を持ちました。 学生の学びを支える環境づくりに努めており、業界が求める人材育成に向けて計画的に改善に取り組まれていると感じました。
7 学生の募集と受け入れ	7-34 学生募集活動は、適正に行われているか 7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか 7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか 7-37 学納金は妥当なものとなっているか	3	本校は宮城県専修学校各種学校連合会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集開始時期、募集内容（AO入試等）を遵守している。 また、過大な広告を一切廃し必要な場合は根拠数字記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。 さらに広告倫理委員会を設置し、広報活動の適切さをチェックしている。 広報・告知に関しては各種媒体、ホームページ、入学案内、説明会等を通して、学校や教育内容を知ってもらえるように努めている。 これらすべての広報活動において収集した個人情報は、校内に個人情報保護委員会を設置し、管理の徹底を行っている。 入学選考に関しては、出願受付及び選考日を学生募集要項に明示し、決められた日程に実施しており、入学選考後は「入学選考会議」により、合否を決定する。 学納金や預かり金、教材等の見直しを毎年行っている。保護者への授業料及び諸経費の提示についても、入学前の段階において、年間必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中での追加徴収を行わない。	学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大な広告を一切排除し、厳正な学生募集に配慮している。 広報活動では「学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。 本校は専門職への就職・デビューを果たしてもらうことを第一目標としているため、入学前から目指す職業のイメージが明確になっていることが大切と考え、体験入学や説明会を通して十分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。 教育成果として、就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化している、学生募集上の効果はかなり高いと考えられるが、それゆえに過大な広告にならないよう、学内に広告倫理委員会を設置し、常にチェックしている。	３・２・１	定員が埋まるにはまだまだ余裕があると思います。もっと広報力を上げて、学生を増やしても良いと思います。 定員が埋まるまで集めることはできないのでしょうか。開校以来、定員が埋まっていることを見たことがないため、また宮城調理製菓専門学校は定員を大きく下回っているらしいが、スイーツ＆カフェ専門学校は増築しており、そこに多くの学生が通っているようです。テレビのコマーシャルもよいですが、根本的に集客の方法を考えて集めることも必要なのではないでしょうか。同時にスタッフの増加も必要なのではないでしょうか。 大学及び専門学校がひしめき合う学生獲得の激戦地でありながら、校内の広報倫理委員会により過大・過度な宣伝を戒めています。就職率の高さと併せて卒業生の就労先で活躍する生の声を多数活用することも募集の上で効果的かと感じました。 ルールを遵守し過大な広告にも注意しながら広報活動が行われており、適切に管理されていると感じました。

8 財務	8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか 8-40 財務について会計監査が適正に行われているか 8-41 財務情報公開の体制整備はできているか	3	財務は、学校運営に関して、重要な要素の1つである。 その中で予算（収支計画）は学校運営に不可欠なものであって、その予算を正確かつ実現可能なものとして作成する必要がある。 毎年、次年度の事業計画書を作成し、その事業計画の中に5ヶ年の収支予算を立てているが、次年度の収支予算はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることによって、学校の財務基盤を安定させるための計画を事前にくんでおくのが目的である。 また、学校、学園本部、理事会、評議員会と複数の目でチェックするため、より現実に即した予算編成となっており、健全な学校運営が出来ていると考える。 財務情報公開に取組み、体制を整えている。	予算を正確かつ実現可能なものにするための2つの要素がある。 ①正確かつ実現可能な予算の作成 短期的と長期的の両方を事業計画として作成し、短期的視野と長期的視野の2つの観点から予算編成をしている。 短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度に予定している業務計画を加味して行われる。 中長期的な予算編成は主として大規模な計画を視野に入れた上で、業界の情勢を読み取りながら行われる。 正確かつ実現可能な予算作成のためには、一旦作成した予算が現実のものと乖離した場合はそれを修正する必要が出てくる。そのために短期的な予算においては期中に「修正予算」を組み、中長期的な予算においては毎年編成しなおすことにしている。 ②体制作り 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、滋慶学園本部がチェックし、修正して最終的に理事会・評議員会が承認する体制を整えている。さらに、予算に基づいて学校運営がなされているかどうかは四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し、予算と乖離しているようであれば、修正予算を編成し、理事会・評議員会の承認を得る体制を構築している。	③・２・１	大変よくできていると思う。 良いと思う。 各種食品の材料費及び光熱費の高騰が問題視される昨今、農業テクノロジー科と連携してベリー種やポポー・梨・いちご・柿等を栽培して教材・食材に仕入額の低減を図るとともに、地域農産物への貢献や学校のPRに活用することも収支面で効果が見込まれるのではと感じます。また、立地を活かした太陽光パネル発電で経費の節減を図るのも一考かと感じました。 安定した財政基盤の構築を目指して、予算編成がなされていると感じました。事業計画とマッチングした予算編成がなされていることをチェック機関が明確であり健全な経営がなされていると感じました。
9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか 9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか 9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとにコンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では学校運営が適切かどうかは次の各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査　②自己点検・自己評価　③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査　等　である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 （A）組織体制 ①財務情報公開体制（学校法人） ②個人情報管理体制（滋慶学園グループ） ③広告倫理委員会（滋慶学園グループ） ④進路変更委員会（滋慶学園グループ） （B） ①個人情報管理システム（滋慶学園グループ） ②建物安全管理システム（滋慶学園グループ） ③防災管理システム（滋慶学園グループ） ④部品購入棚卸システム（滋慶学園グループ） ⑤コンピュータ管理システム（COMグループ） 滋慶学園グループ、滋慶学園COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健全な学校運営が出来るようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。 自己点検・自己評価を実施し、学校関係者評価委員による評価を頂いた上で、問題点の改善に努めるとともに、ホームページにて情報公開を行っている。	すべての法令を遵守するとともに社会規範を尊重し、高い倫理感に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置。委員長は統括責任者として学校の役員が就任し、委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は行動規範・コンプライアンス規定の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。 また、個人情報保護のため一般社団法人日本プライバシー認証機構(JPAC)によるCPOアカデミック資格（学校責任者）・CPAアカデミック資格（学校職員）を取得し、毎年更新している。ホームページに関しても同一般社団法人日本プライバシー認証機構(JPAC)による検査を毎年実施し、TRUSTeマークを取得。こちらも毎年更新を行い個人情報保護の徹底のため取り組んでいる。	③・２・１	良いと思う。 本日のこの会議も含め、コンプライアンスなどよくできていると思う。 学校は特にコンプライアンスを重要視すべくと考えます。その対応として委員会を設置し組織で対応されており、校内で共有されるコンプライアンス意識の醸成に取り組まれており、適切に対応されていると感じました。 食品や農薬等の管理と使用法についても法令等に基づき適切に取り扱われていると思います。健康被害を防ぐ為にも食品衛生法や農薬取締法を引き続き遵守していただきたいと思います。

10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか 10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	滋慶学園グループには、「4つの信頼」①業界の信頼　②高等学校の先生の信頼　③学生・保護者の信頼　④地域の信頼　というコンセプトがある。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 又、滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」や「節電」に関するクールビズやウォームビズは、学生、教職員、講師が積極的に取組んでいる。	滋慶学園のミッションである「職業人教育を通して社会に貢献する」ことを目標に、人材育成を具現化することで、本校を巣立つ学生が社会に貢献することを願う。 在学中から、職業人として育成する「職業人教育」＝「専門職業教育」＋「キャリア教育」を教職員、講師一丸となって推進していくことにより、多くの卒業生が社会貢献できると確信する。 また、東日本大震災で被害に有った農地で育った仙台野菜を使い、焼き菓子・ジャム等を製作し販売。売上金は「田中好子いつもいっしょだよ基金」に寄付を毎年行うなど具体的に取り組んでいる。	(3)・２・１	産学連携教育を通してのほか、ミュージカルで製菓販売するなどの貢献が良くできている思う。 社会貢献としてかかさず行っているミュージカルでの製菓販売・売上の寄付など大変頑張っていると思う。このような行為を目に見せることによって学生の意識も変えられ、今後の学校授業への取り組みも変わるのではないかと思います。またこの学校を卒業した学生の好評もよく聞かれ、先生方の教育の賜物と思います。 職業人の育成を通して、様々な面で地域貢献をしており適切に評価されていると感じました。 実習で作成した作品の菓子等をこども食堂やフードバンクへ寄付していただければ地域としても有難いところです。「若林区民ふるさとまつり」にも参加していただけるとのことで地域のにぎわいへの貢献に感謝しております。授業で発生する生ごみのリサイクルを目的にコンポストを活用しているとのことで、生ごみ処理に費やす焼却処分費用削減への貢献にも繋がっていると感じました。将来の希望や夢を持った若者の学び舎が本地域にあることは街に活気をもたらす他、文化・経済の面でも果たす効果は大きいと感じており、貢献に感謝しております。 現在週に2，3回程度地域の路上ごみを回収することで街並みの美化を目指しています。ご賛同いただけるのでしたら、ご希望数の「地域清掃ごみ袋」をお渡しさせていただきます